オーディオ実験室収載

ヴォリュームアキュライザーの導入(3)
－TruPhase への適用(2)－

１．始めに

前報(2)に引き続き、FIDELIX のパッシブアテネーターTruPhase に適用してみます。

２．ヴォリュームアキュライザーVRA-7 の試聴方法

今回は、ディジタル音源で VRA-7 の効果を確認します。

VRA-7 を貼る前は、レゾナンスチップを貼っていますが、これを除いて VRA-7 に張り替えます。

TruPhase 以降は、前報(2)と同様の経路ですが、ディジタル音源の再生は次のルートで行い、Brooklyn DAC+から TruPhase に入力します。

ハイレゾファイル音源

fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+

CD

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+

BS 放送録画

DMR-UBZ1→Sonica DAC→DA3000→Brooklyn DAC+

BPODCH

DMR-UBZ1→Sonica DAC→DA3000→Brooklyn DAC+

音源は、聴きなれたものを選定します。なお、CD と BS 放送録画は演奏会で聴いてきたものを選定しました。

11.2MHzDSD 音源

ヨハン・セバスティアン・バッハ　無伴奏チェロ組曲

ヤーノシュ・シュタルケル

ステレオサウンド社 SSHRB-005

MQA 音源

ドヴォルザーク　交響曲第 8 番・第 9 番

ラファエル・クーベリック指揮ベルリンフィル

Universal Music　UCCG-40074

BPODCH

マーラー　交響曲第 3 番ニ短調

ロレンツォ・ヴィオッティ指揮ベルリンフィル

CD

ベートーヴェン　ピアノと管楽器のための 5 重奏作品 16

アンサンブルディアーロギ

Harumonia mundi HMM925296

BS 放送録画

ベートーヴェン　ピアノと管楽器のための 5 重奏作品 16

アンサンブルディアーロギ

３．ヴォリュームアキュライザーVRA-7 の試聴結果

Brooklyn DAC+の位相切り替えは、これまでの経験からドヴォルザークのみを逆相としました。

11.2MHzDSD 音源は、アナログマスターから採った 11.2MHzDSD 音源のふくよかなチェロの雰囲気が出ています。

MQA 音源は、細かい音はでるものの、どこか平板な感じが残っていた MQA 音源が緻密で厚みのある音になり、ドヴォルザークらしい中欧の音楽の粘っこさみたいなものが伺えるようになりました。

BPODCH は、マーラーの大編成ものですが、グランカッサの弱打と強打、弦の騒めき、ホールを回りこむようなコントラバスの低音、コールアングレのような木管の質感、総奏を切り裂くようなピッコロなどなど、マーラーの表現力が向上しています。

CD と BS 放送録画は、演奏会で聴いてきたピアノフォルテと 4 つの木管の古楽アンサンブルの演奏曲です。古楽器の質感、とりわけピアノフォルテやナチュラルホルンは演奏会の印象をより強く感じとることができます。

パワーアンプにもヴォリュームがあり、スピーカーの再生パーフォーマンス向上には効果は限定的ではないかという懸念もありましたが、結果はそんな心配を払拭してくれました。特に顕著な効果を感じるのは、アナログと同様、マーラーなど大編成の交響曲で音の構成が複雑な曲です。

４．まとめ

TruPhase のヴォリュームへの適用により、各種ディジタル音源の再生における VRA-7 の効果を認めました。

以上